

# 「病院と施設および在宅で働く看護師交流会」アンケート結果

看護師職能委員会

I.開催日時：平成29年9月30日（土） 13：00～15：00

II.テーマ： 病院と福祉施設間相互見学研修経験者による「看護を語る会」  
交流会「看護の連携強化のために明日からできることは？」

III.話題提供者：

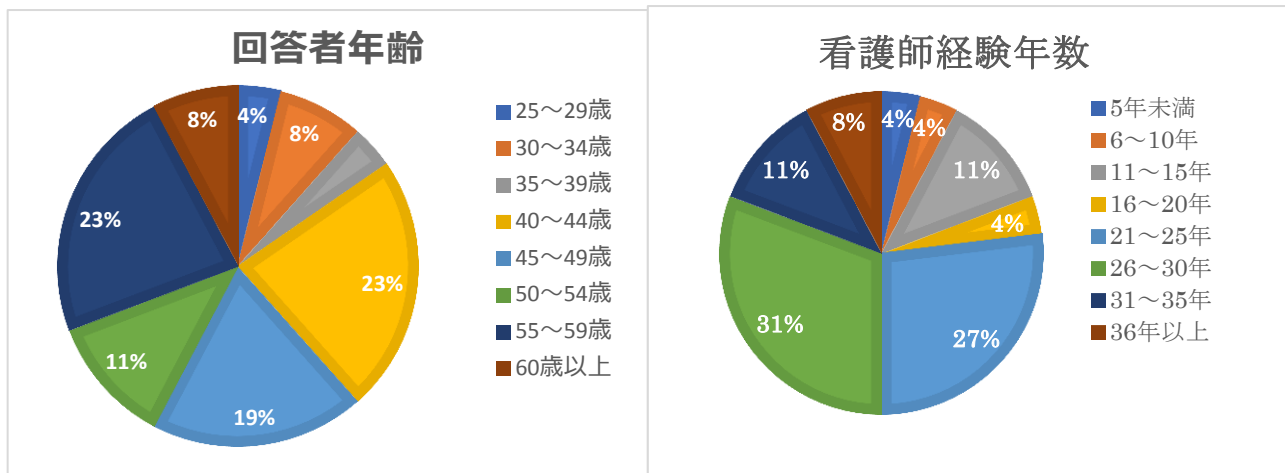
JCHO 諫早総合病院 副看護師長	村山里栄子 氏
サービス付高齢者向け住宅ジャストイン諫早	林田朋子 氏
日本赤十字社長崎原爆諫早病院 看護係長	片山笑子 氏
介護老人保険施設 恵仁荘 看護師長	岩永優 氏

IV.参加者：26名（申込者23名 欠席者1名、 話題提供者4名）  
交流会は看護師職能委員も参加して計32名で、ワールドカフェ形式で実施する。

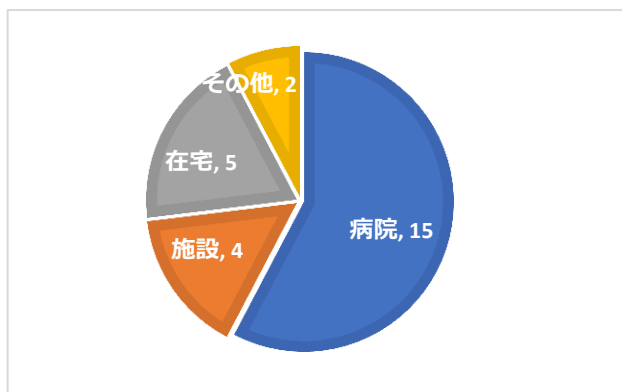
V.アンケート結果

アンケート回収：26名 有効回答23名（ 88.5%） 内訳：男性1名、女性25名

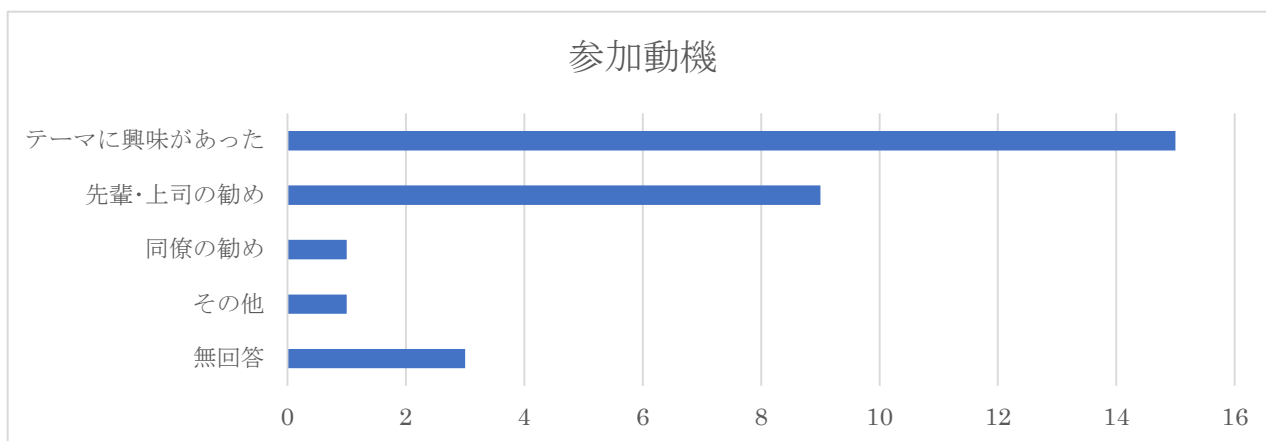
## 1. 年齢・性別・看護師経験年数



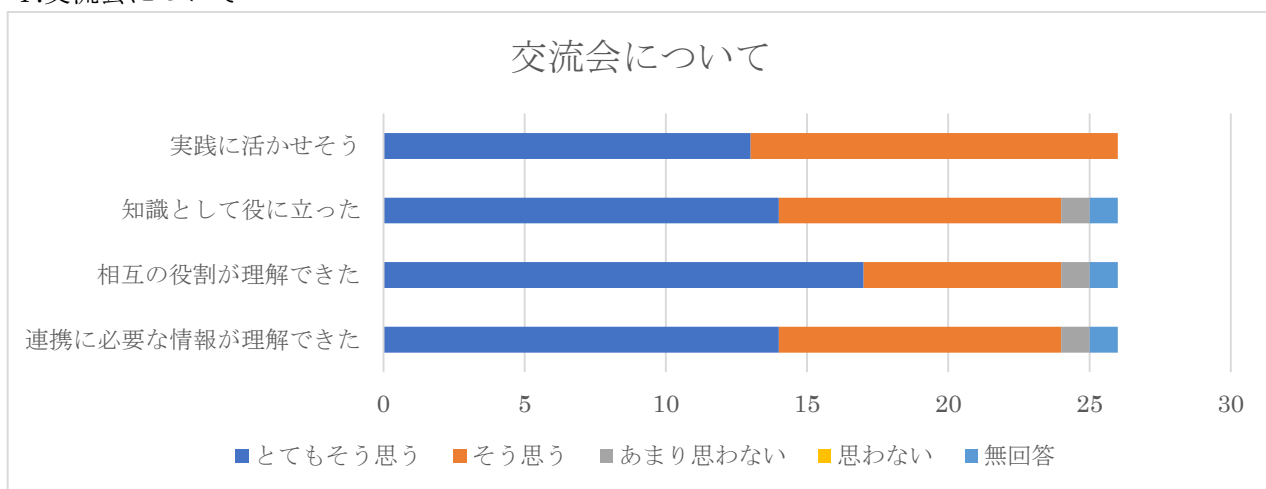
## 2. 所属施設



### 3.参加動機について



### 4.交流会について



### 5.看護の連携強化のために明日からできることは何ですか？

(病院)

- ・ 看看連携に関しては迷うことなく声に出す。
- ・ 患者の情報を伝えた後、その他お聞きになりたい情報は何か聞いていく。
- ・ 常に患者さんのことと、退院してからの生活を考えベッド上生活の場であるということを考えながらケアしていく。
- ・ わからないことや、伝えたいことは直接伝えたい。
- ・ 医療連携室の相談員として地域の関係者の要望・意見を聞き病院職員と共有実践する。
- ・ サマリーの一人歩きにならないようにする。
- ・ サマリーは、医療従事者以外にもわかるように書く。施設のスタッフが来られたときは、できるだけコミュニケーションをとる。
- ・ ベッドは患者さんの生活の場と考えてケアする。
- ・ コミュニケーションを深める。
- ・ 誰が見ても誰のサマリーか分かるサマリーを書く。
- ・ ADL 状況の提供をわかりやすく記入することを心がける。
- ・ お互いわからないことは気軽に聞く。声をかけやすい雰囲気作り。
- ・ 今日から動けるサマリーの作成。
- ・ 笑顔で対応。
- ・ 話かけやすい雰囲気作りに努める。

(施設)

- ・記録は必要な情報をわかりやすく書く。
- ・入院に付きそう際に担当された NS となるべく沢山話しをする。
- ・今日の内容をスタッフへ伝えまず相手の立場を理解し、施設でできることからしたい (マニュアル作成)
- ・お互いを知る。

(在宅)

- ・患者さんのための連携。
- ・まず、本人、家族の意向にそって看看連携で繋げていく。(自分の役割をしっかりと果たす)
- ・必要な情報は声に出して聞いていく。他施設と交流を持つ
- ・窓口を互いに決めて、看護サマリーにないことは電話で情報をとる。

6. 交流会の時間について

適当	長い	短い	無回答
2 3	0	2	1

7. その他意見

- ・ワールドカフェは話しやすくて、いろいろな意見が聞けて良かった。
- ・もっとたくさんの施設の方が (病院も) 来ると良いなと思った。